



8月園だより

2022年8月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

先月下旬に行った夏まつり「あつまれ沼西の森」では、いつもと違う園内の雰囲気、朝から子ども達は「わくわくしちゃう！」と興奮気味でした。ゆり組の子ども達がお店屋さんとなり、次々にやってくるお客さんに「あーいそがしいよー」ととても嬉しそうな表情を見せていました。ちいさなお客さんへの関りもとても上手で、ていねいで、大人顔負けの対応でした。また、幼児さんはこの行事を通して、地球環境についても考える良い機会になりました。乳児さんは各クラスで夏祭りの雰囲気を楽しみました。普段とは違った環境にわくわくするのか、ぴょんぴょんと嬉しそうに飛び跳ね、かわいらしい姿を見せてくれました。

7月末から4・5歳のプールが始まっています。とびきりの笑顔で、全力で楽しんでいる子ども達を見ると、こちらも元気をもらいます。これからの時期は五感を刺激するような、水遊び、あわ遊び、色水遊び、寒天遊び、泥遊び等を夢中でできる体験を大切にしていきます。お洗濯物が増えるかと思いますが、「沢山遊べてよかったね」とほめてあげてください。そして、お洗濯のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



☆8月の予定☆

- 2日(火) 避難訓練
- 3日(水) 幼児身体計測
- 4日(木) 乳児身体計測
- 9日(火) 0歳児健診
- 25日(木) 0歳児健診
- 26日(金) スパ・サイエンス・ツクヨウ

※22日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆9月の主な予定☆

- 1日(木) 引き渡し訓練
- 6日(火) 幼児身体計測
- 7日(水) 乳児身体計測
- 8日(木) 0歳児健診
- 14日(水) 公園練習日
- 21日(水) 公園練習日
- 22日(木) 0歳児健診
- 28日(水) 運動会総練習

※5日・26日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆お知らせ・お願い☆

○感染拡大防止の観点から引き続き、玄関先でのアルコール消毒(大人)と、登園後すぐのお子さまの手洗いをお願いいたします。

○お子さまに発熱や呼吸器症状等がある場合は登園を控えていただき症状によっては受診をして登園の可否の確認をお願いいたします。又、同居のご家族に発熱等の体調不良が認められる場合は、お子さんもご家庭で様子を見ていただきますようお願いいたします。

○咳・発熱のお子さんが増えています。24時間以内に発熱があった場合、又は解熱剤を使用している場合も登園を控えていただくようお願いいたします。

○暑い日が続いています。園では外遊びを行う際には、暑さ指数(WGBT)を参考に決定しています。室内外問わず、水分補給をこまめに行い熱中症予防に努めています。

○園ではこまめに換気を行っておりますが、換気の見える化を図り、すべての部屋に二酸化炭素測定器を設置しています。

○9/1(木)は引き渡し訓練です。いつ来るかわからない災害への備えは重要です。出来る限りのご参加をお願いいたします。後日、別途お知らせを配布いたします。

反抗



毎日、毎日、「イヤ!」「イヤ!」

2歳前後になると、いったんつむじを曲げると何を言っても「イヤ」、「イヤ」の連発が始まります。

「パジャマに着かえようね」「イヤ」、「じゃあ、そのまま寝るの?」「イヤッ」、「どうするのよ、いったい!」「イヤッ」というぐあいです。英語ではそのため、2歳児をテリブルトゥー(terrible two)、恐るべき2歳児というくらいです。

反抗には個人差があり、盛んに反対するのは、いわゆるマイペース型の子です。人とかかわるより、自分で何かしたいという気持ちが強く、好ききらいがはっきりしているのが特徴ですから、頭の中にお母さんと同じ生活の時計があるわけではないことを、なにかにつけて強く主張します。

なぜ反抗がおこるのだろう

反抗はいろいろな要素がからみ合って起こりますが、大別すると4つのタイプが考えられます。

その1つは、子どもに予測する力がついてきたことと関係があります。自分の気に入ったことをしたいので、お母さんが「さあ、ごはんだからおうちに帰ろうね」と言っても、「こんなに楽しんで遊んでいるのに。もっと遊んでいたい。おうちに帰りたくない」という気持ちになるのです。

2つ目はちょうど自我が急成長するころなので、自己主張の最盛期になること。手先も多少器用になって、靴をはくとか、はさみで切るとか、いろいろなことができるようになりますから、自分の能力を使ってみたくてしかたがないのです。でも、まだへたなのでなかなかうまくいかず、イライラしているのに、お母さんが気づかず、いまままでと同じように赤ちゃん扱いをしていると、子どもはプライドを傷つけられて反抗的になります。

3つ目は心の基地ができていない子の反抗です。親子の間に基本的信頼感がしっかり形成されていないため、対人関係に不安があって、自分にやさしくしてくれる人には極度に甘えますが、敵対関係にあると思った人には反抗的な態度をとります。

4つ目はそんなにはっきりとは説明のつかない反抗の場合です。早くおしゃべりができるようになって「よい子」にさせられてきた子が、2歳半を過ぎたころから急に反抗的な態度をとるようになった場合、「もう親の言いなりにはならないぞ、自分がやりたいことをやるんだから」という宣言を、幼い方法で表現することもあります。

反抗にはどう対応したらいい?

子どもが反抗的になっているときに、それを無視して親の言うことをきかせようとするのは、最もまずい対応です。子どもはますます反抗的になって、それこそ收拾がつかなくなります。

反抗は子どもの心が成長したしるしと、おおらかに受け取ってやるのがいちばんいいのですが、いつも時間に追われている親としては、そうそう子どもの要求を認めてばかりはいられませんね。

2歳児を扱い慣れた保育園の保育士さんは、散歩に行くとき、「お散歩に行くから、おしっこに行ったらっしゅい」とは言いません。反抗期を迎えた子どもたちから「おしっこなんて出ないもん」「おしっこ行かなきゃいけないなら、お散歩行かない」と言われるに決まっているからです。そこで、

「あの公園にね、ヤギさんがいたんだよ。みたいねえ。みんなどうかな」

「えっ、行きたい」「ヤギさん、見たーい」

「あっ、おしっこ行ったかな」

「まだ」「先生、待ってて」「行ってくる」

というように対応するそうです。うまくノセるといったらいいでしょうか。

子どもは楽しみが待っていると、その前の障害を乗り越えることができます。何かさせようとしたら、子どもに期待を持たせてやる必要があります。

反抗が目立たない子は?

反抗が目立たない子にはことおあります。一つは親がじょうずに対応していて、反抗がほとんど目立たない場合。全く問題ありません。

しかしもう一つのケースは問題です。お母さんの期待に添った行動をするいわゆる「いい子」は、小さいうちは確かに育てやすいでしょうが、しだいに「自分という自我」と「周囲の期待に添わなくてはならない自我」の葛藤に悩むようになります。よく「小さいころはいい子だったのに・・・」という相談がありますが、こういう子は思春期になってから問題行動が目立つようになります。

もし自我の形成がおくれているために反抗しないのであれば、これまでの育児をふり返ってみてください。小さければ小さいほど立ち直りは早く、傷も小さいのですから。子どものあるがままの姿を認め、子どもの一歩後ろからついていくという気持ちを失わないで、育児を見直してください。

主婦の友社 「0~3歳 能力を育てる好奇心を引き出す」
東京大学名誉教授 汐見 稔幸